

◎研究題目「橋野稲作のはじまりとその発達史」

① 稲作のはじまり……三三〇年前(弥生時代前期)にはじまる

② 大陸からの渡来人↓稲の種子栽培技術農具を耕った人の伝来

。県内では唐津市の茅畑遺跡で二四〇〇年前稲作はじまる(縄文時代末)

③ 渡来人は稲作の適地として潮見山麓の出水の多い湿田を見付けそこで稲を育てた

。湿田はやわらかく幼稚な農具でも(刮板鋤など)耕し易い

④ 潮見納子、みやこの遺跡の斧掘調査で石包丁 弥生土器のつぼ(米の貯蔵用)出土

その他有鉤銅釧 玉類(装身具)出土↓米作で生活が豊かであった証明

青銅製の鏡、中国銅鉄、鉄器なども

⑤ 蛇神川と灌漑用小溝の整備 (三世紀末〜七世紀) ↓上野、小野原、平野

⑥ 南の山、東の山の出水を利用する(右同) (水田とほりの配置)

⑦ 古墳時代の豪族の灌漑工事

玉島古墳(五世紀末 県指定史跡) 円墳は県下最大

潮見古墳(六世紀中頃 県指定) 武器、馬具、金冠出土

北楯崎古墳(七世紀の豪族墓)

東福寺古墳(元白公民東側の山)古墳三基内二基は前方後円墳

秋迎寺遺跡(弥生〜古墳時代の古墳(合口入榎)の基程)

青銅製鏡(ヤマガタ) 銅剣、銅矛(どつり) 県指定遺物

⑧ 八世紀初期…国の一。万町歩開墾計画の推進…大さな用水池建設

。秋迎寺山の肥前軍団の駐留(五〇〇名) …かんつぎ堤は々の用水池ではなかつた?

⑨ 中世(一二三三〜一三三三) 嘉禎三年(橋公業) 長島庄総地頭として橋の下向

⑩ 潮見塚を築き長島庄を治める 長島庄(川登、橋日橋下村(大塚まで))

。潮見神社整備 梅宮神社を祭る 溝の上永島花島、大崎、久津具、橋母

⑪ 潮見川を掘る↓蛇神川分岐点から大日堰まで 発掘は中世前期 橋公業の時代

大日堰から中橋まで 排水(天面対策と船便)

。発掘調査…長崎自動車道建設事前調査…発掘調査図により説明

。この潮見川野水で下村(当所橋)の名称三五町歩の記録あり(現在水田四〇町歩)

④潮見川西岸の橋脚建設地の発掘図面

⑤(中世初期の所跡の図面) ↓ 図面で分かったこと

。長さ70m。川幅2.25m。深さ30〜50cmの溝

。十本の小さな溝が納手潮見側にあり

。東のみやこ地区には小溝(灌漑用の小溝がない

④(川の水の大部分は北部の<sup>橋</sup>水田に灌漑するが目的)

の東部のみやこ山野原地区の灌漑用水は別途? (蛇神川)

③初代城主公業の経歴と産米対策 ↓ 開田計画

③橋公業の施策 ↓ 孫達を橋野北部地区に常駐させた

⑦波江公村(波江姓の創設) ↓ 波江森

。石井樋下に常駐させ石井樋と井手の開閉のかんとくさせる

④。あとで三代城主となる

④中島公茂 江湖の片白字内廷に常駐 鉄工の作業者

(武器武器農具等の鉄工作) かのやの森 ↓ 地名として残る

中村公光 ↓ 大日村字甲村に常駐 江湖の水上交通を担当

中村は川港として人々の便益をはかる 付近に荷物集積所

戦後まで田境一基あり 中村港と中橋間は舟の「はなみち」

⑥印鑰社と印鑰橋

。印鑰社：水上安全祈願の神社として大日に勧請

。印鑰橋：昔は辰橋であった

⑤中橋の遺跡 庄の前、庄事務所跡 蓮華玉院への米送り

中橋特産の担当(時成は波佐所) 事務は潮見が

④(成富兵庫茂安の潮見川工事) ↓ 二俣文書 兵庫橋大日井手⑥⑦ 再興云々

①潮見川を広く深く掘る ②茂手の石井樋工事

③大日井手 昇越工事 (④生見川掘削工事) 排水不充分(兼佐所村)

④大細川道越川掘削 (兼地寺まで)

※七年に亘る大工事(成富兵庫は長泉寺に逗留) 寛永二年完工

昭和20年平成の圃場整備に伴う潮見川大改修工事

(1) 潮見川(江湖)三又の六角川分岐点まで川幅を100mに広幅する

(2) 茨手石井樋↓大堰に改修する

(3) 東川↓中橋まで灌漑河川にする(中橋水門)潮汐浸入をとり用水を貯水する

※新大細川(納手)ニ俣まで(川幅をなげ貯水量をふやす

5) 板橋水門(ニ俣)中橋水門設置 洪水の害をなくす

(6) 聖気揚水の道す入 以上で用水を豊かにし洪水の害を防ぐ